

黒毛和種における分娩事故低減と介助者負担軽減に向けた計画分娩処置の実施例

丹後家畜保健衛生所

○坂田貴洋 岩本尚史

【はじめに】 分娩事故低減と介助者負担軽減を目的とした、ホルモン剤複数処置による計画分娩の実施例を報告する。【材料及び方法】 2017 年 12 月～2019 年 2 月までの期間中、管内黒毛和種繁殖農家 4 戸（繁殖雌牛 8～66 頭飼養）の分娩遅延や過大子が予測される妊娠牛 20 頭を、E2 区（n=8）、E3 区（n=12）の 2 区に分けて分娩誘発処置を行い、誘発時の胎齢、分娩完了までの所要時間および分娩介助状況について調査した。分娩誘発はプロスタグランジン F2 α 製剤（ジノプロスト 25mg）と合成副腎皮質ホルモン（デキサメサゾン 10mg）を用い、E2 区はエストラジオール安息香酸エステル注射液（エストラジオール安息香酸エステル 5mg）を併用、E3 区はエストリオール水性懸濁注射液（エストリオール 20mg）を併用した。【結果】 誘発時平均胎齢（平均日齢 $\pm$ 標準誤差）による両区の有意差は認めなかったが（E2 区：289 $\pm$ 1.68 日、E3 区：293 $\pm$ 0.86 日）、誘発後平均娩出時間（平均 $\pm$ 標準誤差）では E3 区で有意に短縮した（E2 区：31.3 $\pm$ 0.991 時間、E3 区：26.4 $\pm$ 1.799 時間、 $t<0.05$ ）。分娩介助状況は強度の牽引助産が必要であった件数は、E2 区で 8 件中 5 件、E3 区では 12 件中 2 件であった。【考察】 実施した分娩誘発では両区とも概ね 25～35 時間で娩出に至り、午前中誘発、翌日中の娩出といった計画分娩が可能となり介助者の負担軽減及び分娩事故の低減による生産子牛の増頭に有効と考える。